

第七中学校区における市立こども園設置に関する説明会 会議録

(平成 29 年 7 月 10 日 開催分)

【1. 開催日時・場所】

平成 29 年 7 月 10 日(月) 午後 1 時 15 分～午後 2 時 30 分 秋津幼稚園

【2. 出席者】

- ・ 保護者 16名、その他 2名
- ・ 習志野市(小澤こども部次長・小野寺こども政策課長・松岡同課施設係長・小田)

【3. 内容】

- ・ 第七中学校区のこども園設置について

【4. 参考資料】

- ・ [別紙] 第七中学校区における市立こども園の設置について

【5. 説明会概要】

1. 開会

<小澤こども部次長>

本日は 3 回目の説明会となりますので、改めて、少し概要をお話しさせていただき、御意見を頂戴できればと思います。

2. 第七中学校区のこども園設置についての説明

<小野寺こども政策課長>

※ 5 月に配布した、参考資料に基づき、改めて説明をしました。

※ 前回、6 月 23 日の説明会での御指摘を受け、5 月 23 日の説明会の議事録の内容については、現在、内容を再確認しております。再確認が完了した後、PTA 会長さんにも御確認いただき、配布させていただきます。

※ 前回までの説明に加え、乳幼児人口について、加えて説明しました。

人口は、緩やかに増えており、0~5 歳児の乳幼児人口も若干増えていますが、秋津地域・香澄地域では伸びていないこと、習志野市で乳幼児人口が多いのは、谷津地域・奏の杜地域であることを説明しました。

<小澤こども部次長>

前回頂戴した、お母さま方からの署名については、市長をはじめ、その内容を確認させていただきました。

これまでの御提案の内容というのは、お母さま方にとっては、驚きで突然という感じがするかもしれませんが、市としては、幼稚園が定員割れをしてどうしていくかを、平成 12 年ころから検討してきました。

こうしたなかで、中学校区ごとに7つのこども園に統合する方針を、市として定めているところであり、順次、整備してきました。

今回、なぜ、急にと思われたかと思いますが、秋津幼稚園において、平成 26 年度から 10 人の入園が続いたときに、市としても今後の対応について検討していましたが、その後、少し持ち直しましたため、「習志野市こども園整備と既存幼稚園・保育所の再編計画」(以下、「再編計画」という。)の第 3 期計画において、検討することといたしました。

その後、香澄幼稚園の平成 29 年度の入園が 5 人になりました。

お母さま方は、幼稚園を本当に良く思ってください、少人数の良さを出すため職員も努力はしてきました。

しかしながら、さすがに 1 学年 5 人のクラスでは教育が成り立ちません。習志野市の幼児教育は小学校に就学するにあたり、子どもたちが負担感を感じずに、様々な経験を通して、社会性など生きるための力をつけてもらいたいと思っております。そのためには、適正な集団規模があると考えています。

こども園の園長を含めた、幼稚園の園長会においても、最低ラインはどこか、改めて、検討したところ、10 人を切ったら集団教育は成り立たないと結論を出しています。

こういうことからすると、秋津地域・香澄地域の乳幼児人口が増えない状況を踏まえると、もしかしたら、秋津幼稚園の入園も、今後、10 人を切ってしまうかもしれません。このように、秋津幼稚園も香澄幼稚園も緊急的な状況であることを御理解いただければと思います。

先週、香澄幼稚園の保育を見させてもらいました。

(年少組において、)5 人のうち 2 人お休みがあり、3 人で大きな砂場で遊んでいましたが、担任の先生が一生懸命頑張っても、やはり遊びに広がりが出ませんでした。

子どもたちの様子を見ても、不安感や、刺激を求めることからか、担任の先生のそばを離れられないとった姿がありました。

年長児は 8 人全員が女の子です。

集団教育のなかで、お友達とのトラブルのなかで学んでいくことがたくさんありますが、8 人ではトラブルも発生しません。

担任の顔を見て、担任の望む方へ望む方へ動いてしまう様子もありました。

やはり、こういった状況を見ると、市としては、いずれにしても、中学校区ごとに 7 つのこども園を整備し、幼稚園を統廃合していく構想を持っていますので、マイナスに向かうのではなく、子どもたちにとってより良い環境をつくっていくことについて、是非とも御理解いただきたいと思います。

少しでも良い環境でお子さんをお預かりして、子どもたちがそれなりの集団のなかで、お互いに認め合ったり、トラブルのなかで、子どもたちが自分の力で解決策を見出す力をもって小学校に上がってもらいたいと思っています。

(新たなこども園の場所が、)秋津幼稚園なのか、香澄幼稚園なのかということもありますが、子どもたちはこの地域をつなぐ重要な人材となり、必ず、秋津小学校に帰ってきます。

また、現状では、(在園児が少ないため、)秋津幼稚園も香澄幼稚園も教務主任を 1 人ずつ外しています。

消耗品費や備品購入費については、市全体の幼稚園の公平性の観点から、全て人数割で予算が提供されます。秋津幼稚園でさえ、年少組 13 人、年長組 19 人に対する予算のなかで保育を実施しなければならず、衛生管理的なものを買えば、遊具などは買えません。こういった状況のなかでの運営は大変厳しいものであります。

是非ともこども園という形で、それなりの予算をつけ、人員配置も潤沢にし、預かり保育は長期休業中も実施するなど、サービスの向上を図ってまいりたいと思います。

それにしても、考える猶予がないということで、みなさんからはこども園整備の凍結の御意見が挙がっていますが、ここで、1 年、2 年遅らせてしまうことが、子どもたちにとって本当に良いことなのか考えたときに、こども部としては、1 日も早く適正な集団のなかで、担任を揃えて保育をさせていただきたいという思いがあります。

さすがに来年からという訳にはいかないため、1 年間しっかり周知を図り、この 1 年間の猶予のなかで、子どもたちの交わる機会をたくさんつくって、子どもたちが安心して、秋津幼稚園から香澄こども園に移っていただけるような体制も含めて、整えていきたいというのが今回の御提案となります。

3. 質疑応答

<保護者>

少数だから、いずれ統合されるということは止むを得ないと思います。

ただし、なぜ、香澄幼稚園の場所にこども園を整備するのかは、まだ、納得できません。拙速に決めてしまうのは、あまりに乱暴です。

こういった判断がされるまでに、保護者や地域にはどのような説明がされてきたのでしょうか？

<市>

この間も触れましたが、なぜ、香澄幼稚園の場所にこども園を整備するのかは、秋津幼稚園・香澄幼稚園の環境、人口の増加率、建物の造り、施設の老朽度など検証してみても、ほぼほぼ同じ状況にあります。

園庭は少し香澄幼稚園の方が広い状況にありますが、昭和55年に植われた木々は、どちらも同じように成長しています。遊具の設置状況も変わりありません。

こういなかで、市域全体をみたときに、秋津幼稚園の近くには袖ヶ浦こども園があつて、歩いていけなくはありませんが、香澄地域や袖ヶ浦5丁目、6丁目の地域においては、幼児の教育施設がありません。

市が何を以て判断したかということここだけです。お母さま方の気持ちは良く分かります。現場職員としても、施設を1つ1つ無くしていくのは、身が裂かれるような思ひです。

しかし、市全体のことを考え、サービスの公平性から香澄幼稚園の場所にこども園を整備することを御提案しているところです。

(この判断に至るまでどのような御説明をしてきたかという、)平成25年度の第2期再編計画をつくるときに、地域のみなさん全体に向けて、それぞれの公民館で説明会をしています。秋津幼稚園でも御説明をしました。このときも、秋津幼稚園と香澄幼稚園を合わせて、香澄幼稚園の方に、0歳～5歳児までを受け入れるこども園を整備することを説明しております。

ただ、こういった計画は、なかなか、今回のように具体的に動き出さないと、みなさんに振り返っていただけなく、再度の御説明が不足したことは申し訳なかつたと思ひています。

市としても、平成32年度以降の第3期再編計画で、再度、検討しようとしておりましたが、先程からお話しているように、思ひ以上に子どもの数が減つてしまつており、このままでは、秋津幼稚園も香澄幼稚園も共に十分な運営ができません。

こういった少人数であることをしょうがないとは、市の責任として言えませんが、よろしくないものをよろしくないままにしておくことは、市の責任において、あつてはならないことと考へました。

ここは、地域バランスではなく、秋津の地域の思ひとか、香澄の地域の思ひとかを、もつと行政として1番考へるべきだろうということは認めますが、こども部としては、1番中心に軸を置いて考へたのは、子どもたちにとって、より良い環境で保育・教育をさせていただきたいというのが、全ての始まりであり、全ての結論です。

急すぎるということはその通りであると思ひます。

前回から持ち帰って、こども保育課の指導主事ともこども園を整備する時期は、平成 31 年度がよいのか、平成 32 年度にするのがよいのか話しをしました。

こども園の整備の時期が来年度と決まれば、教育活動をどう構成していくか、主体的に計画を立てられるということでした。

例えば、鹿野山に合同で行っているように、秋津幼稚園と香澄幼稚園合同で遠足に行くとか、週に 1~2 回は中央の場所で会うとか、双方の幼稚園に行きあうとか、今まで以上に目標をもって交流計画を立てられます。

今、香澄幼稚園は、月に 2 回、秋津幼稚園に訪問して活動をしています。

また、かすみ保育園にも出向いて交流を持たせてもらっています。子どもたちの足だと 30 分程度かかるそうですが、秋津幼稚園に来られることを楽しみにしているとのこと。

<保護者>

人数は減っているかもしれませんが、これは 1 年だけのこともかもしれません。香澄幼稚園も先生方の努力で人数が増えるかもしれません。

アンケートでもとらない限り、人数の確定はできないと思います。

今、1 年間だけを見て、(香澄幼稚園の 4 歳児が)5 人だということで判断するのは早すぎると思います。

ただ、幼稚園として、今の人数では成り立っていくことが厳しいということは分かりますが、これが何十年も続けば、周りの人もうなずけると思いますし、これからどう努力していくかだと思います。

香澄幼稚園の人数が増えなかったとしても、秋津幼稚園は実際に人数が増えているのだから、歴史を崩すことはないと思いますし、どうしても残して欲しいと思います。

<市>

1 年間で判断をしたのではありません。平成 26 年度から減少傾向が続いています。

今、秋津地域にお住いの方でなくても、秋津幼稚園に集まってきてくださることで人数が増えるかもしれないとお話がありましたが、市としては、地域ごとに幼稚園が配置されています。また、市立のこども園を中学校区ごとに 1 つ配置しようとしています。

御自分の近くの地域にこども園、幼稚園のいずれかはあるなかで、全ての施設が定員を満たしていません。

これが、定員を超えて、どこの幼稚園もお預かりをしているようであれば、確かに奏の杜のお子さんを秋津幼稚園に御案内するようなこともできますが、あれだけ子どもが増えている奏の杜地域でも谷津幼稚園は定員を満たしていないといった状況です。

各地域に幼稚園やこども園が配置され、お通いになれる距離にあるなかで、子どもがうまってこないというのは、絶対的人口が増えていないことや私立幼稚園や保育所を御希望される方が増えていると考えられます。

それは、みなさんがお話されたように、公立幼稚園で3歳児を受け入れないからということもあるかもしれませんが、これは習志野市が市制を施行して60年のなかで、当時から私立幼稚園が幼児教育を担ってくれている歴史があるなかで、公立幼稚園さえよければ良いということにはいかず、私立幼稚園を御希望される方も考慮する必要もあります。

(秋津地域・香澄地域の乳幼児人口の)絶対数が増えている訳ではないことや、これに加え、保育所を希望される方が増えて、時代の流れが幼稚園から保育所に流れていることが数字でも明らかになっています。

このような状況のなかで、やはり適正規模に戻した上で、サービスをより向上させていく必要があります。

習志野市としては、私立幼稚園に馴染めない子ども、在宅で子育てされている方への支援など、(子育て家庭を)孤立させないため、市として支援していく必要があります。

こういったことで、地域の子育ち子育ての拠点となる、こども園を選択いたしました。

<保護者>

秋津幼稚園の子どもが少しずつ増えていますので、まずは、秋津幼稚園を残して、一旦、香澄こども園をつくって、どのくらい通うか見てみてはどうでしょうか？

両方をなくして、こども園だけになってしまうと、行くところがなくなり、贅沢ではあります。もう少し選択肢を増やしてほしいです。

そこに行きつくまでのアプローチが必要だと思います。一気に話を進めてしまうと子どもたちも混乱すると思います。

実際に、袖ヶ浦こども園でも、短時間児と長時間児のお子さんが同じクラスで生活をしていて、午後2時になっても帰れない子どもたちがいるなかで、それをもっと増やしていいのかという疑問もあります。

どうしても、香澄幼稚園にこども園をつくらなければならないという話は分かりますが、今までのものを全部潰して、1つこども園をつくらうというのがあまりにも急すぎます。

選択肢も狭まるし、通うための足もないし、バスもなくて、小さい子どもを通わせるのはとても大変です。子どもたちには危険が及んで、命に関わるとても大事なことです。

そういった人たちには猶予がほしいです。

実際に香澄こども園の生活を見て選択できたら、保護者としては、税金も払っていますので、選択肢を増やしてくれたら有り難いです。

<市>

当事者のお母さま方からすると猶予がほしいという気持ちは分かります。

ただ、市としては、平成18年に1つ目の東習志野こども園をつくり、これを検証して、幼稚園を統合して中学校区ごとに1つこども園をつくっていかうという方針を決定しています。

選択肢を増やしてほしいということについては、こども園も選択できる、公立幼稚園を望むのであれば、遠くなりますが選択していただける、私立幼稚園も選択できる、保育所も選択していただけるということで、就学前の選択肢というは、他市に比べればたくさんあります。

他市では幼稚園が私立のみで、公立がないところもあり、そういうところは、保育所か私立幼稚園しか選択肢がない状況です。

市の言い分にはなりますが、距離の問題はあるにせよ、御選択いただけるメニューはいろいろあります。

少し猶予が欲しいということについては、今のお母さま方には猶予ができますが、次の当事者には猶予がないことになってしまいます。猶予をつくるのがどうなのか、1年遅れれば遅れるほど、施設としては厳しい状況に追いやられてしまうのではないかと考えています。

今、秋津幼稚園では男性教諭がいて、一生懸命がんばっています。

男性が1人いるというだけで本当に違いがでます。

例えば、大きなプールは、男性教諭がいるから出せる状況にあります。香澄幼稚園では、女性教諭だけで、大きなプールは出せません。また、来年、秋津幼稚園に男性教諭を配置できる保証はありません。

電話でのお問い合わせもたくさんいただいています。

これから、幼稚園を選択される方たちが、一体いつから、どこで何が行われて、3歳児は受け入れてもらえるのかを一刻も早く提示してほしいという問合せがほとんどです。

こういった部分も考えると、確かに急ぎ足ではありますが、ある程度のところで方針を示さなければいけないと考えています。

<保護者>

袖ヶ浦こども園の開園が遅れました。工事が遅れることは考えづらいので、地域住民からの反対があったのかもしれないと考えています。

もし、平成31年4月に開園としたなかで、また、同じように袖ヶ浦こども園のように半年も遅れてしまった場合、子どもたちがどのかの施設に振り分けられてしまわないか心配です。

こういった繰り返しは避けてもらいたいです。

<市>

袖ヶ浦こども園の工事が遅れたのは、地中埋設物が出てしまい、それを撤去するのに時間がかかってしまったためです。その間に、工事事業者の職人の確保が困難になり、空白期間が1~2ヶ月ありました。こういったことが遅れた1番の要因です。

建替え工事というのは何が起こるか分からないというのがあって、みのりつくしこども園の場合も同様に地中埋設物が出てしまい、工事が遅れるということがありました。

こういったことですので、地域住民のみなさまの反対が原因ということではありません。

<保護者>

今回は部分的な改修工事を行うため、地中埋設物はないだろうと考えられているとは思いますが、何が起こるか分からないということであれば、その場合について事前に説明すべきで、不安材料をなくすべきだと思います。

<市>

もし、御提案の内容で決定したならば、今、大変貴重な御意見を頂戴しましたので、いろんなことを想定して説明するなど安心していただけるよう対応してまいります。

<市>

もし、平成 31 年度に香澄こども園に移るとしたら、平成 30 年度の秋津幼稚園の募集は普通に行わせていただき、移るときにはできるだけ職員も一緒に移って行かれるようにして、子どもたちの不安を最小限度とすることなど検討しているところです。

また、遠くて通えないという方々について、バスのこともいろいろと調べました。

正直も申し上げて、どのくらい需要があるか分からないなかで、バスを出すのは難しいかと思えます。

1 番活用できるとしたらコミュニティバスが総合福祉センターから香澄小学校まで出ているので、それを御活用いただくのが良いのかと思っています。

できれば、向山幼稚園や袖ヶ浦こども園も定員を満たしていないので、お住いの近くの施設を活用していただければと思います。

<保護者>

今日までに前回の議事録がいただけなかったのは残念でした。

次回があるようであれば、これまでの 3 回分の議事録をいただければと思います。

<市>

今日、配布できず申し訳ありませんでした。

議事録については、なるべく早く、みなさんに配布できるようにします。

<保護者>

前回までのお話しでは閉園の話が急でしたので、先延ばしてほしいという意見を申し上げたところ検討中とのことでしたが、その後はどうなりましたか？

<市>

検討しました。

今のところ市としては、子どもたちにとって早急に適正な教育・保育を実施したいことから、平成 31 年度にこども園を開園させたいということに変更はありません。

実施するにあたっては、子どもたちが不安にならないよう、職員の配置や 1 年間の子どもたちの交流の仕方などについては、私どもが総力をあげて取り組んでいかなければならないことについて、先程も少し触れさせていただきました。

<保護者>

市の提案通りとなった場合、来年度の下の子たちの募集はどうなりますか？

<市>

まだ、仮定ではありますが、来年度は通常通り募集を行うことを考えています。

平成 31 年度にこども園を開園させていただくこととなれば、平成 30 年度は、通常通り、秋津幼稚園も募集を行い、この際、平成 31 年度に香澄こども園に移っていただくということを前提として募集をさせていただくこととなります。

<保護者>

広報にはいつでますか？

<市>

10 月 1 日に出版。

<保護者>

そうすると、10 月までは(明確なことが)分からないということですか？

<市>

そうなりますが、前回の意見交換の際に、私立幼稚園のプレ体験の申込が 8 月にはあるとのことでしたので、こういったことを加味したなかで、どの時点で決定していくかということとは、考えなければいけないと思っています。

検討中であっても、限りなく方向性が定まっていれば、市のホームページに掲載することなども含めて検討してまいります。

何よりも、新たに御入園を御検討されているお母さま方が困ることのないようにしていきたいと思っています。

<保護者>

みなさん残したいと思っているなかで申し訳ない意見ですが、人数が少なくなって、秋津幼稚園と香澄幼稚園が統合されてしまうのは、みなさんしょうがないと思っているとは思いますが。

1つの中学校区に1つのこども園ということで、香澄にできるこども園には秋津地域の人も行ける権利があるのに、車がなく、遠くで行く術がない人に対して、交通のことを考えていただけないというはどうなのかと思います。袖ヶ浦こども園があるというのは、乱暴な考えだと思います。

同じこども園であるということ考えた時に、園庭が広い、香澄のこども園の方に行かせたい思いがあると思います。

袖ヶ浦6丁目や香澄地域で通える施設がなくなるから、香澄幼稚園の場所にこども園をつくりたいということであれば、そこにすることで秋津地域から通えない人たちのことも考えてほしいです。

<市>

大久保こども園は、大久保保育所と新栄幼稚園が統合します。

実は、新栄幼稚園の園区はすごく広くて、1番遠い方で2キロ近く離れています。それでも、新栄幼稚園に通っていただいていたのですが、大久保こども園に通うとなると、さらに遠くなります。

そういう状況でも、何とか自転車や車等を使って御協力をお願いしています。

また、東習志野地域も東習志野8丁目から、東習志野こども園まで相当な距離を通っていただいています。

実際に、秋津幼稚園から香澄幼稚園まで歩いたり、走ったりしてみたところ、歩道を通ると1.4キロくらいになります。そうすると、遠い方は2キロ近くなくなってしまいますが、他の地域を踏まえると、バスを出すのは厳しいというのが結論です。

雨の日はどうするのかということがありますが、何とか来ていただけないかと思っています。

<保護者>

この問題がクリアできると、みなさんの考えも変わることもあるかもしれないと思いました。

秋津幼稚園がなくなって、香澄幼稚園に統合されることを 100 歩譲って受け入れたときに、市としてもそれなりのことをしてほしいというのが、みなさんの考えだと思います。ここに残るのが 1 番だとは思いますが……。

朝、夕の 1 本だけでもバスを出すことはできないのでしょうか？

<市>

実際、どのくらいそういった方がいるのでしょうか？

奏の杜の子どもたちの場合も、路線バスを使っていただいています。

<保護者>

路線バスでも良いと思います。

路線バスは走っていますが、第七中学校のところで曲がってしまい、香澄幼稚園の方にまっすぐ行くバスがありません。

<市>

福祉センターまで出てきていただくことは厳しいでしょうか？

そこから、香澄小学校までコミュニティバスが走っているので、そちらをご利用いただくことはできないでしょうか？

コミュニティバスでは、総合福祉センターから香澄小学校までの路線があり、ちょうど、登降園の時間に合った時間帯にバスが走ってはいます。

<保護者>

コミュニティバスは遅れて来ると聞くこともあります。

<市>

バスについては、市といろいろと考え、他の地域の公平性も考えるなかで、コミュニティバスを使っていただくのが、このバスの利益拡大にもつながり、良いかと御提案させていただきました。

<市>

大変申し上げづらいですが、バスを出すとなると、大変経費がかかります。

他の地域のことを考えると、バランスという言葉を使いたくはありませんが難しいところです。

<保護者>

そもそも、コミュニティバスが消防署止まりで、秋津地域に回ってこないのはなぜでしょうか？

<市>

持ち帰って担当部署に聞いてみます。

※(担当部署への確認結果)

- 本市のコミュニティバス、愛称ハッピーバスについては、平成19年に実証運行を開始、平成21年から本格運行に移行し、現在に至りました。
ルートの選定にあたりましては、市内を東西に貫いております京成線を市民移動の主軸として位置づけまして、京成電鉄各駅との連絡、また、市役所をはじめとする公共施設や医療機関への移動手段の確保を主眼としています。
また、既存の路線バスの経営を圧迫することのないように、JR津田沼駅の駅前広場への乗り入れを見合わせるとともに、路線バスのルートとできるだけ重複しないようにしております。
- 秋津地区には、JR津田沼駅と新習志野駅を結ぶ路線バスが運行されており、本数も多く確保されております。このことから、コミュニティバスは総合福祉センター敷地を周回するルートで運行しているものであります。

<市>

議事録について、前回の説明会でいろいろと御意見がありました。内容を再度確認したところ、ほぼ網羅されておりました。

廃園というダイレクトな言葉はありませんでしたが、秋津幼稚園は環境が良いのでなくすべきではないということを強く言っておられて、それが、結果的に廃園すべきでないという御意見であることは、私どもとしては十分に認識しているところです。

PTA会長さんには、御負担になるかもしれませんが、改めて、御確認をいただいた後、御了解をいただきましたら、みなさまにも配布させていただきたいと思っております。

4. 閉会

《問合せ》

習志野市こども政策課 電話番号 047-451-1151(内線:442・433)